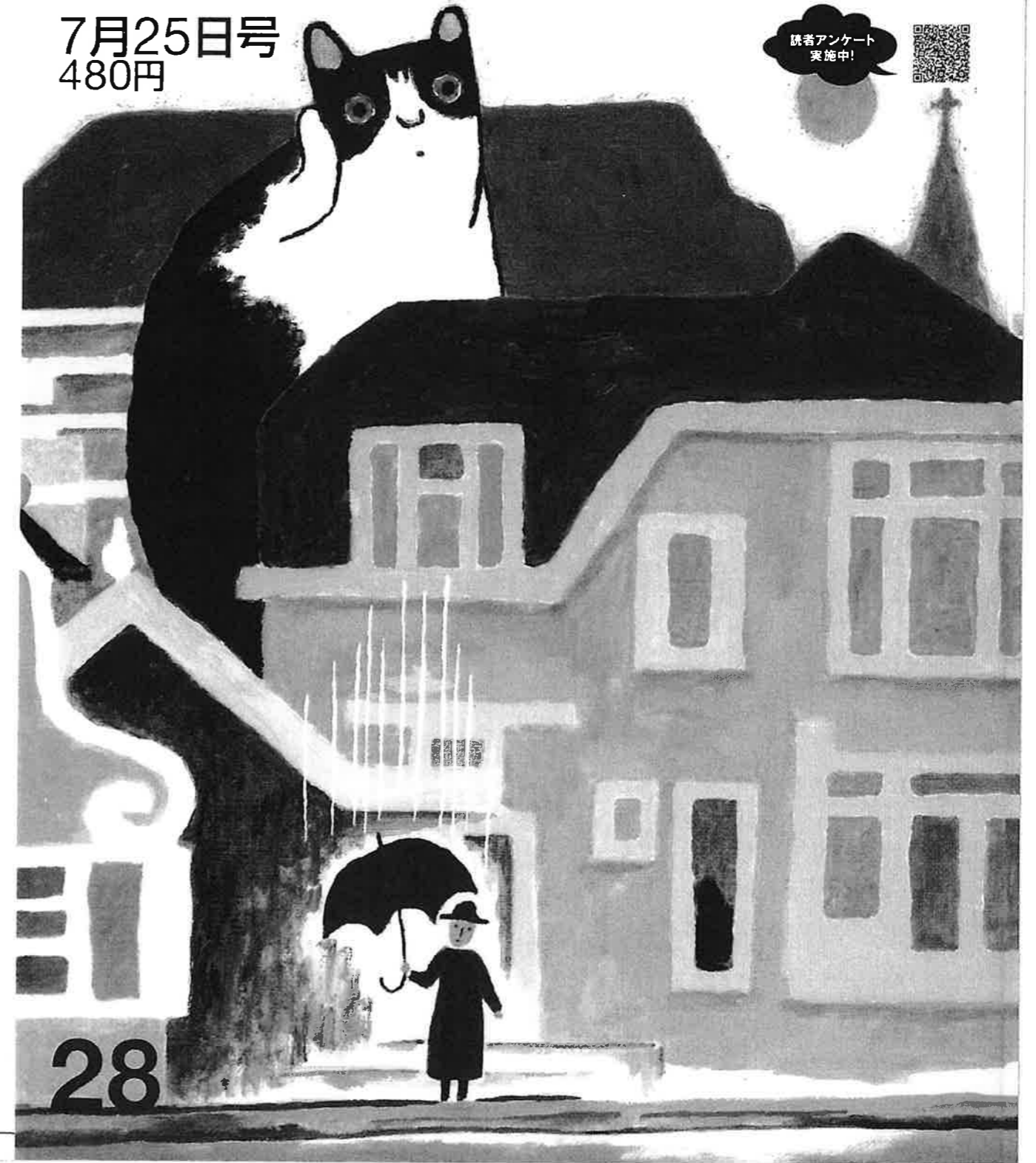


# 週刊新潮

7月25日号  
480円

読者アンケート  
実施中!



## 注目の士業

SPECIAL INTERVIEW

スペシャルインタビュー 第43回

税理士編

東京都町田市 ■ 税務会計・資金調達支援会社設立支援・相続・資産税

代表税理士 大貫利一

事務的な税務処理の先にある解決力で  
企業経営を多角的にサポート

多くの人に商才を見出されながら起業の夢は叶わず、税理士登録は32歳の時。その人柄を慕う経営者たちが心を開き、彼らの想いを受け止めて会計業務以外でも多角的な支援を広げ、それがまた信頼を生む好循環。事務的な税務処理の先にある解決力は、どう培われてきたのか。

小手先の税務対策よりも  
企業にとって重要なこと

1963年に起きた「飯塚事件」をこ存じだろうか。国税庁が飯塚税務会計事務所と関与先企業へ税務調査に入り、4名の職員を法人税法違反教唆容疑で逮捕。飯塚税理士が約6年

を闘い抜き、全員に無罪を勝ち取った有名な事件だ。決着後、飯塚氏はTKC全国会の結成を主導。現在では1万名を超える税理士集団へと成長している。のちに資料映像などを観た大貫利一税理士は、孤独な闘いにもまったく動じる様子のない



代表税理士 大貫利一 (おおぬき としかず)

■経歴  
昭和35年 神奈川県相模原市生まれ  
昭和59年 専門学校で税理士試験科目の簿記論の講義を担当  
昭和63年 神奈川県内の大手会計事務所に勤務  
昭和63年 宅地建物取引士合格  
平成5年 税理士登録  
平成20年 独立開業  
平成20年 行政書士登録  
■著書他  
「はじめて帳簿を付ける人の本」明日香出版  
月刊「税理」(ぎょうせい)に原稿執筆

い飯塚氏の揺れない心に深く感銘を受けたという。全税理士に向けて瞑想を勧め、直感力や洞察力の重要性を説き、「自利利他」の精神を植え付けた飯塚氏の教えを実践し、「愛と感謝を大切に」というメッセージを税理士活動の背骨に。「修行時代の事務所の先生からも、自分ひとりが儲けたいなら君は潰れる、我々が道を示さない」と企業経営者はどう走ればよいのか分からないだろう、とずいぶん諭されましてね」と懐かしそうに語る大貫税理士は、現代の企業経営の重要な要素として社会貢献性を指摘。「最近納税意識が高まっていますが、社会への還元も強くお勧めしています。小手先の税務対策は課税の繰り延べにすぎず、いまの顧客の幸せが未来の利益として戻ってくることを理解する経営者が増えていきますからね。税務調査を避けたいなら書面添付を徹底するなど、現代は正攻法こそ有効な時代だと思うのです」

会計業務以外の課題にも積極的にサポート

柔和な表情が印象的な大貫税理士は、多数の客先に大量の「ファン」を抱える。税理士は職務上、お金に関する情報をすべて把握するものだが、孤独と闘う経営者たちは「この人なら相談できる」と確信し、それ以上の本心を打ち明けるのだ。「経営者の心には、リスクへの恐怖や普段は見せない家族への愛情など、いろいろな想いが渦巻いています。ならば、帳簿に記されていない部分まで多角的に寄り添えば、より適切な助言を送れることとなります。だから税理士はまず聞くのが仕事、先生と呼ばれて気分がよくなっている場合ではない、と笑う。

相続問題ではすれ違い時はもつれ合う心の糸をほどき、資金繰りの苦しさを吐露する時は言葉のさらに奥まで洞察する。それを税務業務へと落とし込むわけだが、大貫税理士は「その先」の受け皿まで用意する。

「町田に相続手続き支援センターを開設しているほか、行政書士法人、経営コンサルタント、



そして最近是人材紹介会社を立ち上げました。経営者の悩みは必ずしも税務の話だけではないので、さまざまな課題解決をサポートしたいのです。その積み重ねが地域や社会の活気につながり、やがて「三方善し」の実現につながると信じています」。

大貫利一税理士事務所

<https://tax-info.jp>

TEL.042-710-6160

所在地 東京都町田市森野1-22-5  
町田310五十子ビル3F  
アクセス JR・小田急町田駅から徒歩4分

大貫利一税理士事務所

検索